

平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■共同研究 12
主査名	森本章倫 ・ 早稲田大学理工学術院社会環境工学科 教授
研究テーマ	LRT 導入と沿線土地利用に関する研究
研究の目的: <p>世界各地で LRT(次世代型路面電車システム)の整備が進む中で、その導入は交通流の整流化のみならず、地域経済の活性化に寄与している事例も多い。中心市街地に賑わいが戻ったり、LRT 沿線地価が上昇したりするなど、まちづくりの装置としての役割も期待されている。また沿線土地利用の変化は、人口減少下での都市機能集約への効果も報告されており、コンパクトシティ形成のためのツールとしても活用できる。そこで本研究は、LRT 導入と沿線土地利用の関係を調べることで、駅周辺への集約化に関する知見を得ることを目的とする。</p>	
研究の経過(4月～9月): <p>これまでに計 2 回の研究会を実施し、主として以下のような議論を行った。特に、欧州の LRT 導入都市に着目し、まちづくりのコンセプトや導入効果について討議した。</p> <ol style="list-style-type: none">1) フランスの LRT 導入状況の把握 (第 1 回)<p>ストラスブールとオルレアン の LRT 導入経緯とその効果を各種文献から整理し、まちづくりにおける LRT の役割と課題をまとめた。その結果、まちづくりにおける LRT の役割について一定の共通見解を検討することができた。</p>2) イタリア・フランスの LRT 導入状況の把握 (第 2 回)<p>フィレンツェの LRT の導入状況の報告を受け、今後のプロジェクトについて議論を行った。また、フランス諸都市の状況視察について報告を受けるとともに、ナント市の都市計画についての資料をもとに討議を行った。</p>	
下期へ向けて(課題等): <p>これまでの海外事例にドイツの事例報告を加え、LRT 導入がまちづくりに与える影響を整理する。また、我が国の導入事例として①富山ライトレールの沿線土地利用、②宇都宮市の LRT 導入計画と沿線土地利用について分析した結果をとりまとめる予定である。</p>	
研究メンバー(敬称略): <p>森本章倫(主査・早稲田大学) 高橋洋二(日本交通計画協会) 苦瀬博仁(流通経済大学) 森田哲夫(東北工業大学) 長田哲平(宇都宮大学) 木梨真知子(佐賀大学) 黒澤武邦(早稲田大学) 市川嘉一(日本経済新聞社) 毛利雄一(計量計画研究所) 中井秀信(ユーラステクニカルサービス) 澤野宏(国土交通省) 小谷幹夫(秦野市) 菊地秀夫(秦野市) 赤松宏和(価値総合研究所) 遠藤俊太郎(運輸調査局) 豊辺将嘉(日本交通計画協会) 大門創(計量計画研究所) 坂本壮(早稲田大学) 大賀惇平(早稲田大学)</p>	